

2024 年
全国大会演奏曲 演奏にあたって

一般社団法人 日本弦楽指導者協会 関東支部

全国大会演奏曲 演奏にあたって

2024年3月24日（日）に開催される全国大会の演奏曲について、指揮者の先生方に演奏上の注意点をご執筆いただきました。ぜひ、門下生の方々のご指導にお役立てください。

◇初級合奏A……………指揮 内藤 アンナ

◆キラキラ星変奏曲：フランス民謡 鈴木鎮一編（荻野松宣編曲）

今回演奏される「キラキラ星変奏曲」は、前回第81回全国大会と同じ荻野松宣先生編曲のバージョンで演奏いたします。約5分の曲になりますが、お馴染みの主題と様々なリズムパターンの変化に気を付けながら演奏しましょう。落ち着いたテンポで、4分音符は80～84位の速度で練習し、特に16分音符は急がないように注意しましょう。先生方は、前奏と後奏、各変奏の間にある2小節の間奏部分を弾きながら、生徒さんが全体の流れを把握できるように誘導してください。

まずは、背筋を伸ばして正しい姿勢を確認し、右手の手首や人差し指に余分な力が入らないように気をつけながら、きれいな音でリズムカルに楽しく練習しましょう！先生方、多くのご参加にご協力、ご指導をお願いします！

◇初級合奏B……………指揮 安富 洋


◆メヌエット BWV Anh. 114-115：バッハ作曲（安富 洋編曲）

ト長調（BWV Anh. 114）とト短調（BWV Anh. 115）の2曲からなっており、演奏会などでは一緒に演奏されることが多いです。本当はバッハではなくペツォールト作曲だということがわかっていますが、バッハの妻マクダレーナに贈った「アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳」にあることから「バッハのメヌエット」として親しまれています。メヌエットは元々踊りの曲で、少しゆったりとした3拍子の優雅な曲調です。やさしい気持ちで弾いてください。メヌエットⅠは明るい音で、Ⅱでは少し暗い雰囲気に行きましょう。何度もダウン・ダウンになるところがありますが、弓を少し戻して、弦に弓の毛を置いてから弾けるように練習してください。

指使いはポジションを使っても使わなくても結構ですので、先生と相談してください。

◆スパニッシュ・セレナーデ：ボブ・セルリ作曲

ラテン的な雰囲気漂う曲です。 $\frac{4}{4}$ で138というテンポが書かれていますが、隣の $\frac{2}{2}$ で69という2拍子を感じて弾くようにしてください。

チェロがハバネラのリズム  をずっと演奏していますので、それにのるように演奏すると楽しいです。また、全音符が何度も出てきますが、音を十分に保って演奏し、アクセントや強弱もしっかりつけて練習してください。

◇大人のための合奏……………指揮 柴 香苗

◆アンダンテ・フェスティーヴォ：J. シベリウス作曲

「アンダンテ・フェスティーヴォ」は、フィンランドの作曲家、シベリウスが作曲した弦楽合奏曲です。フェスティーヴォとは、イタリア語で「祝典的な」という意味ですが、この曲のもつ荘厳な雰囲気大切にしながら、弓をたっぷり使って、のびやかに歌うように演奏いたしましょう。クレッシェンドの前は、少し音量を落としてから、次第に盛り上げてください。また、「meno」という表示のあるところ（18小節、24小節など）は、少し弱めに柔らかく弾きましょう。

終わりの2小節は、厳かなアーメン終止で締めくくりましょう。それぞれのパートの動きや全体のハーモニーを感じながら、指揮をよく見て、皆さんで心を合わせ、おだやかな気持ちで演奏いたしましょう。

◆歌劇「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」：プッチーニ作曲（島根恵編曲）

2006年のトリノオリンピック女子フィギュアスケートで荒川静香さんが金メダルを獲得した際、荒川さんの得意技で流行語にもなった「イナバウアー」が話題となり、それと共に一躍有名になった曲です。この曲はメロディラインに付点2分音符などの長い音符がたくさん出てきますが、そのような部分にはリズムを刻みながら動いているパートが必ずあるので、アンサンブルの時は自分以外のパートもよく聴くようにしてください。また、音を十分にのばせるように、弓の配分にも気をつけるようにしましょう。曲の始まりはゆったりとした優美な雰囲気ですが、クライマックスに向けてダイナミクスも変化していき、徐々に情熱的になっていきます。練習番号D以降のメロディには、8分音符のスラーがなくなっていますので、一音一音弓をたくさん使ってしっかりと音を出して進み、最後のフェルマータのトレモロは、全員でホールいっぱい音を響かせて、盛大に終わらしましょう！

◇JASTA グレートマスターズ……………指揮 青嶋 直樹

◆アルビノーニのアダージョ：ジャゾット作曲

「アルビノーニのアダージョ」として広く親しまれてきたこの楽曲は、皆様既にご存じのとおり、実際にはアルビノーニの研究者でもあったレモ・ジャゾットの作品であり、バロック風ではあるけれどもバロックではない現代の音楽です。

様々なアレンジで演奏されることも多いですが、幅広くアレンジが利くという点でも、対位法的な手法でがっちり作曲されているバロック音楽とは一線を画している今風の音楽と言えるのではないのでしょうか。

さて、今回は、たった一人で何百人もの弦楽合奏と対等な音色を出すことのできるパイプオルガンとの共演です。

パイプオルガンは我々が演奏している弦楽器とは、構造や音の立ち上がり、響き、消え方など全く違うので、お互い真っ向勝負の演奏をしてはせっかくの持ち味を打ち消しあうことになりかねません。

そこで今回はフレーズや、テンポ、強弱等の表現を、楽譜どおりではなく、その場で工夫していきたくて考えています。演奏会当日までいろいろな変更があると思いますが、よろしく願いいたします。

◇中級合奏 A……………指揮 佐野 貴昭

◆「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第 1 楽章：モーツァルト作曲

モーツァルトの大変有名な作品で、特に第 1 ヴァイオリンが華やかに活躍する曲です。テンポは 4 分音符=132 ぐらいになります。この曲は 8 分音符がたくさん出てきますが、スラーがつかない 8 分音符は全てスタカートで短く弾くようにしてください。冒頭 4 小節間の上げ弓から始まる 8 分音符は、元半弓で弾けるように弓の位置を調節しましょう。また、連続する 8 分音符はスピッカート奏法で弓を弾ませて演奏してください。

第 1 ヴァイオリン 9 小節目と 10 小節目の前打音は、拍の頭に入れて 16 分音符で演奏します。12 小節目からの第 1、第 2 ヴァイオリンの短前打音も拍の表に合わせるようにしてください。

展開部 60 小節目以降の第 1 ヴァイオリンは、主に第 2 ポジションを使って演奏します。ポジション移動も必要になりますので、音程に気をつけて練習するようにしましょう。

全体的にアレグロの指示通り、快活で行進曲風なイメージを持って、全員で楽しく合奏しましょう。

◇中級合奏 B……………指揮 田淵 彰

◆合奏協奏曲作品 6 第 8 番「クリスマス」：コレルリ作曲

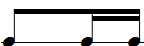
最初のヴィヴァーチェは弓を速く使いましょう。5 小節目は一小節が 6 拍になります。次のグラヴェはゆったりとチェロバスから音が重なってきます。遅めの 4 拍子です。次のアレグロは活発な曲です。ソロを弾く人は最初の小節のチェロをよく聴いてください。その後も同じことが続きます。弓はだいたい上半弓を中心に使いましょう。次のアダージオは柔らかい響きの変ホ長調です。八分音符を一拍と数えてください。途中で活発なアレグロになります。ファーストの 16 分音符は弓の中ほどで軽やかに。セカンドはテーマを弾いています。再びアダージオが戻って静かに終わります。次はまた活発なアレグロで 3 拍子です。ソロのトリルは上の音から弾いてください。

次のアレグロは 2 分の 2 拍子でやはり上半弓を使いましょう。最後の 1 かつこには入らずにパストラールに入ります。8 分の 12 拍子のト長調で大きな 4 拍子です。103 小節に入るときは少し間を取りましょう。119 小節からセカンドは 4 小節間 G 線で弾いてください。



◇上級合奏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・指揮 深山 尚久

◆組曲「ホルベアの時代より」作品 40：グリーグ作曲

第一楽章・・・冒頭からの音形  は、ヴィオラ以上は弓の真ん中から元で、腕を使い、少ない量で弓を立てて弾きましょう。p になったら少しだけ先の方で弾きましょう。繰り返しの後は、音を出す前に必ず弓を置いてください。最後の四分音符は全弓で弾きましょう。

第二楽章・・・ゆっくりの3拍子です。3拍目を急がず、次の1拍目を丁寧に弾きましょう。

第三楽章・・・アクセントやスフォルツァンドは、素早く音を抜いて響かせるように。特にミュゼットでのアクセントは、注意が必要です。

第四楽章・・・8分音符の刻みが、切れ切れにならず3拍子の中で真っ直ぐ進んでいくことを心がけましょう。メロディーは隅々まで歌うように。

第五楽章・・・伴奏のピチカートは、弓を手のひらで握って親指を指板にかけて弾きましょう。最後の4小節の1拍前で素早く持ち替えます。

◆ 楽器と右肘が下がらないように！

◇大合奏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・指揮 立木 茂

◆威風堂々：エルガー作曲（島根恵編曲）

この「威風堂々」は イギリスでは第二の国家と呼ばれ 広く愛されている曲です。勢いよく生き生きとした部分と まさに堂々とした美しい旋律の部分から成り立っています。今回もパイプオルガンの壮大な響きと共に元気良く清々しい気持ちで演奏しましょう。

